

とらうべ

オートリクシャからかいま見た触れ合い

ワスナニ・モニカ・孝子

国際結婚家族の会/マジカル・チャイルド・クラブ

私は、国際結婚などの多文化家族が日本社会の中で自分らしく生きていくことを助け合う自助グループ「マジカル・チャイルド・クラブ」の代表をしています。

私と夫は子供たちの教育を夫の母国インドで受けさせることを決め、当時16歳の長女と4歳の長男とともに約2年間、インドで暮らしました。夫は送金のため単身日本に残りました。でも残念ながら、インドの教育環境の予想以上の厳しさ(超競争・超権威主義など)に私たちは挫折し、「な～んだ、日本のほうがずっとましだ」という結論に至り、最近帰国しました。

2年間のインド滞在では忘れられないたくさんの出来事・出会いがありました。日本に帰ることを決めた頃、感傷にひたる間もないほど慌ただしくなったなかで、私は、一生忘れられない風景をオートリクシャの中から見ました。

日本の産業道路のようなものすごい交通量のある、騒音とすすと様々な汚物で汚れたインドの道端に、そこだけ異次元のように静浄な空間がありました。白髪のおじいさんがひとり、道端に座り込み路上散髪屋をしていました。彼の前には双子のようにそっくりな老人の客が座っていました。多分散髪があらかた終わったのでしょう。散髪屋はお客様の顔を薄汚れたタオルで拭っていました。

その老人特有のゆっくりとした手つきは、まるで大切な宝物に触るような深い慈しみと慎重さにあふれていました。お客様の顔をよく見るためしかめた眼もと

には、深い理解と共感が滲んでいました。そして客のおじいさんは、まるで赤ん坊のように無防備で散髪屋を信頼し切っていました。

カースト制度は法的には廃止されたけど、カースト的価値観は未だ根強くインドの人々の心に残っています。私が道端で見た散髪屋たちは、インド社会の底辺を生きる人たちです。貧しい人たちは不浄扱いされる社会で、彼らが老人になるまで自分のからだ・存在にどんな思いを重ねてきた

ことでしょうか。私はこのふたりのおじいさんから、からだの触れ合いは愛の伝え合いなのだと教わりました。

一方、日本のからだの触れ合いは、おじさんたちの恥知らずな買春ツアー、インターネットにあふれるポルノ情報、女子高生たちの援助交際、街中で人目をばばからずイチャつく若者たち……。なんだか変だよ！ この貪るようなセックス過剰反応！ それなのに、一方では密室育児、セックスレス夫婦、学校で会社でママたちの集まる公園で、あらゆるところで起こっているイジメ……。親しい人間関係づくりができない人たちが急増しているのです。

からだの触れ合いや親しきから癒しや安らぎが生まれるのは、赤ちゃんのときにお母さんの肌の温もりに触れた心地よさや、子供のときに誰かに愛情のこもった目で見つめられた体験などが原点だと思います。日本人の心の落ち着きのために、お母さんと赤ちゃんの温かな触れ合いを、日本社会がもっともっとサポートできたらな、と思います。

